



## Lily's Market

### “いいユリ”もいろいろ 「品質を守る競り人の条件」

競りの世界でも機械化・オンライン化が進んでいます。しかしどんなに時代が変わっても、商品の価値を理解していることが競り人としての絶対条件。品質の評価に対する責任は、時代が変わっても同じなのです。

ですから私も、花屋の視点から見た「いいユリ」を学び、それを生産者に伝えています。用途によって「いいユリ」の基準も様々。その中で求められる品質について生産者に伝え、付いた価格の理由を理解してもらいます。どんなに思い入れのあるユリや、大変な想いで育てたユリでも、消費者の期待を裏切る品質ではいけないのです。

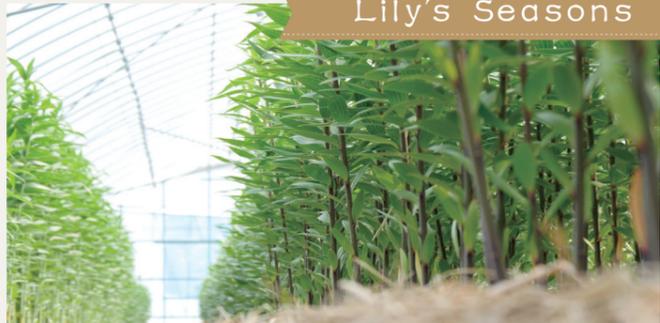
また、花屋にも、このユリはこう説明して売ってほしい、という生産者側の要望を伝えます。それぞれの立場を理解しながら、消費者に喜んでもらえるユリを流通させられるよう努めています。

長年ユリの取引を仲介している者として、「ユリはいい」と感じていただけるものを届けたいのです。そのために努力を惜みず、生産者と買参人の架け橋としての務めを果たしていきます。

取材協力：(株)名港フラワーブリッジ 下條 諒次郎さん



## Lily's Seasons



直球勝負の私は、ユリ生産初心者でもとにかくやってみて、躓いたら身振り手振りで説明し、ユリを作ってまたトライしての繰り返しでした。

私の農園は台風の通り道で、台風通過後は棒を2000本くらい持って一本ずつ起こさないといけません。他にも過酷な条件が多くて思うようにいかず、何回もやめようと思いましたが、でも、その度に手を差し伸べてくれる人がいて、家族の助けがあって、背中を押してくれるのです。私がユリを諦めないのは、支えてくれる人達がいるからです。

私には理想のユリがあります。1mの丈に5輪の花を付け、倒れることのないしっかりした茎と黒々とした葉、蕾はペットボトルくらいあるグラマラスなユリ。そんな理想のユリの姿を、「パーフェクトクイーン」というブランド名に込めています。

自然が相手なので、雨が多かった年、日が照っていた年、その時々で違ったユリができ、同じものは一本としてできません。厳しいことも多いですが、自然の恵みの有り難さを感じながら理想のユリを追い続けます。

取材協力：Perfect Queen 朝倉 聡さん

ユリを諦めない  
「目指す理想の『パーフェクトクイーン』」



## Lily's Life

### ホームユースに桜山ブーケ 「花とふれあう楽しみを提案する」

当店ではホームユースに最適なミニブーケ、「桜山ブーケ」が人気となっています。ラッピング済みで生け替える必要がないミニブーケで、手軽に自宅で飾ることができます。お客様からは「花束ってこんなに飾りやすいんだ!」「普通に生けるより持ちがいい」と好評で、遠方からも注文があるほどです。まずは飾ってみるところから、「花のある生活」を送るきっかけになれば嬉しいです。

実はお客様から「お花を教えて」と頼まれることも多いのです。男性のお客様から、花瓶にどう挿したらいい?などと質問され、コツを伝えながら「自分は花を生ける時間を提供していたんだ」と気付かされました。

最近では型にはまったデザインだけでなく、自分なりの表現で生けられるものが出てきています。以前はブーケに使われなかったユリも、多様な表現の中で重宝されるようになっていきます。ユリに親しむチャンスも増えているわけですね。私たち花屋からも、もっと花とのふれあいを楽しむ方法を提案していきたいと思っています。

取材協力：(有)フローリスト ナガイ 永井 宏明さん

